



《担当講義》

- 博物館学I・II・III
- 博物館実習
- 《研究テーマ》
- 博物館とパブリック・ビジネス
- アジア地域の伝統的土器づくり
- 伝統文化・歴史遺産の保護・保存
- 《プロフィール》
- 出身県:福岡県
- 血液型:B型
- 星座:かに座
- 好きな言葉:世の中の人は何とも言わば言え我が成すことは我のみぞ知る。
- 《主な履歴》
- 大学時代、考古学を志し、遺跡の発掘に明け暮れる。大学院時代には、東京で博物館に勤務し、2001年から3年間、非常勤講師、2004年から本学講師

—先生はどのようなテーマを研究されておられますか。

私の研究テーマは主に三つあります。まず一つ目ですが、私は博物館学去員課程を担当しているので展示の仕方、教育の方法、伝統文化の保存などについての研究をしています。二つ目は民族誌の調査です。東アジア地域のモノづくり技術の記録や研究をしています。特に、土器づくりに注目しています。三つ目は考古学です。民族誌の調査をもとに、遺跡の発掘で出土した土器の製作技術を研究しています。

現地の多様な文化は魅力的

一見ばらばらのことをしてやるかのようにですが、これらを関連付けながら研究を進めることこそが、自分なりのスタイルを表現することになるのです。

—研究の面白さといえば、何でしょうか？

博物館での面白さは、その地域の知が集積された百科辞典のようなところですね。何度も繰り返して訪れることで、その面白さをおかみしめることができるでしょう。そして、その面白さを伝える方法をあれこれ思案することでしょう。

笑いあり、真面目さあり、性格に、しむ講義

先生は、厳しさの中に優しいさのある人ですね。

博物館学去員課程履修に必要な科目のうちの一つなので先生の講義を受けました。博物館の目的の二本柱は、調査研究、公開展示、収集保存だといわれています。人文系資料は、調査研究や公開展示をすれば資料にとってよくない光や空気に触れるので、資料劣化に繋がる恐れがありますが、博物館の場合公開展示をしないわけにはいかないので将来にわたって資料を保管するための対策の話が面白くもあり興味深かったです。

先生のテキストは記述や論述式で、課題は博物館見学というものがあっていますが、見学後に博物館についてのレポートをまとめます。講義の雰囲気は、笑いあり、真面目さありという空気でですね。わかりやすく説明してくれるのでポイントがよくわかります。

民族誌の調査は、誰にも知られていない所を旅しながら調査することです。技術を見て記録するだけではなく、現地の言葉や食べ物など多様な文化に触れながら研究できる場所は魅力的で楽しく、やめられないですね。

—求めている学生は、どんな人と言えいいのでしょうか？

たくさん、とにかくできるだけのいろんな勉強をして下さい。なぜ大学に来ているのか、自分がいること、していることについて、しっかりと考えてほしいですね。アルバイトに明け暮

れるのもいいですが、単に金儲けのためだけに働くのではなく、自分にとって有益に、役立つように、うまく活用できる学生になって下さい。

—徳澤先生の学生時代はどんな様子でしたか。

私の学生時代はバイトばかりしていましたね。遺跡の発掘など、アルバイトは、自分にとって直接有益になるものを選んでしていました。

—先生は宝物をお持ちでしょうか。教えてください。

うーん、手帳ですかね。手

帳は自分の分身のようなものです。手帳をきっちり管理できることは、自分自身をコントロールするという意味で。

—休日は何のようにすごされていますか？

休日は料理を作ったりしています。和食、洋食なんでも作れますね。学生時代に厨房ちゅうほうに入ってた学びました。「男子厨房に入る可からず」といいますが入るべきですよ、男子も。どんな形であれ、将来きつと役に立つと思います。人においしいと言ってもらえると、素直にうれいしいものです。

—岡山の穴場をご存知でしたら教えてください。

穴場は旭川の河原ですかね。朝、テクテク歩くともとても気持ちいいですよ。あとは後楽園から理科大学までの間を歩くのも好きです。皆さんもぜひ歩いてみてください。

—岡山についての印象はどうですか。一言でいいますと…。

うーん、私は岡山にきて5年目になるのですが、いまだによくわかりませんね。なんとなくのんびりしている気がします。

あと、言葉。私は福岡生まれで、大学時代は東京で過ごしました。岡山の女の子が「じゃー、じゃー」と話すのを聞いたときは、びびりましたね(笑)。